

老人介護の経験と支援策

前森林総合研究所
林木育種センター育種部長

宮田 増男

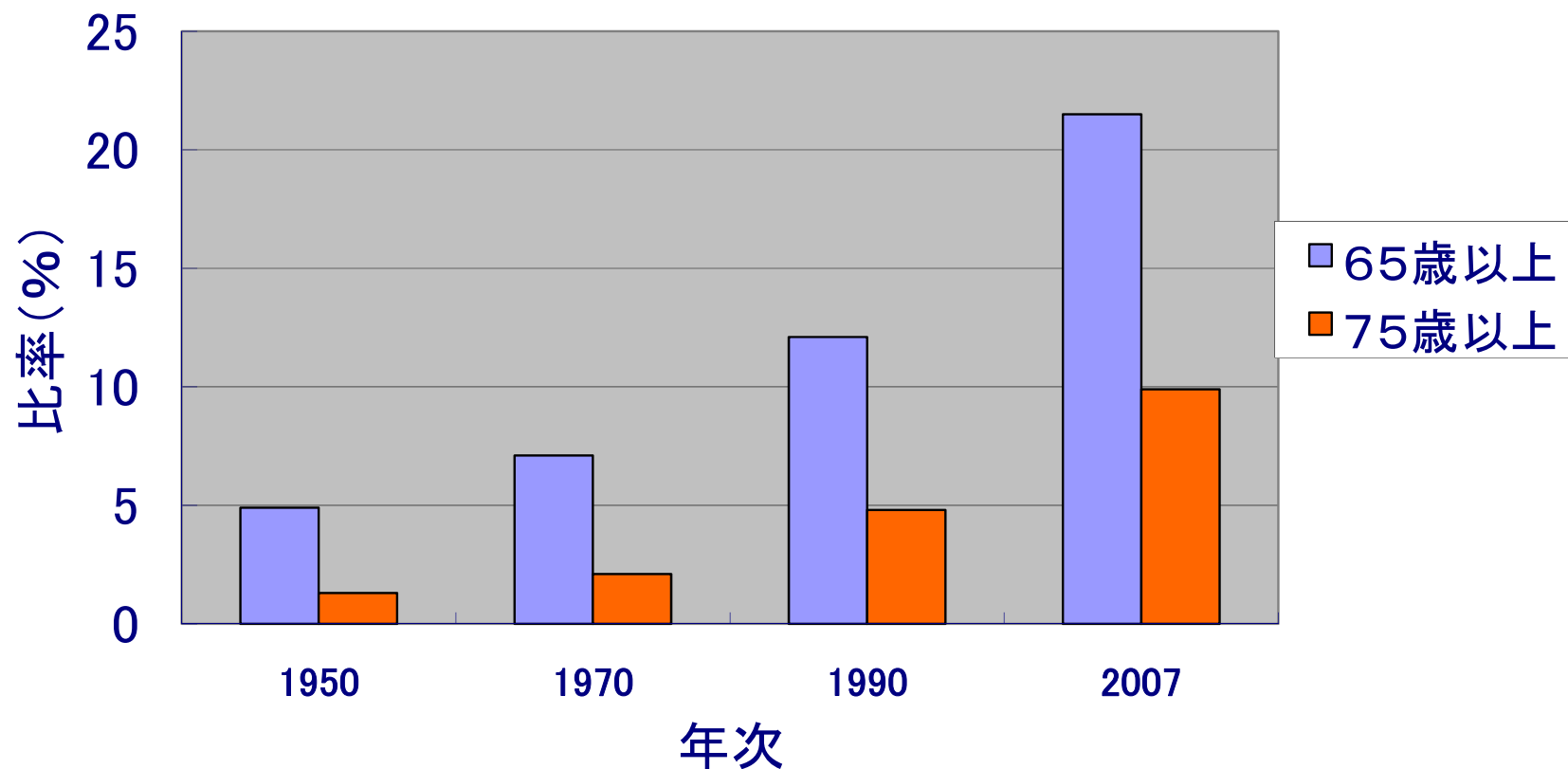
=老人介護の経験と支援策=

目 次

- 1 老人介護の主なサービス等の実態**
- 2 私の家族における老人介護の実態と問題点等**
- 3 老人介護に対する一つの考え方**
- 4 老人介護に係る職員への支援策の検討**
- 5 両親の介護を通じて学んだこと**

老人介護の主なサービスの実態

老人比率の推移



注) 各年とも10月1日現在の総人口に対する老年人口の割合を表す。1970年までは沖縄県を含まない。
(総務省統計局の「統計データ」から作成)

老人介護の主なサービスの実態

□ 老人福祉法（1963年制定）

高齢者の福祉に関する基本的理念を明らかにするとともに高齢者の福祉サービスの提供などについて規定。

□ 介護保険法（1997年制定、2000年4月施行）

介護保険制度の設定とその保険給付等について規定。

介護保険制度における被保険者と受給権者

	第1号被保険者	第2号被保険者
対象者	65歳以上の者	40歳以上65歳未満の医療保険加入者
受給権者	<ul style="list-style-type: none">・要介護者（寝たきりや認知症で介護が必要な者）・要支援者（要介護状態になるおそれがあり日常生活に支援が必要な者）	左のうち、初老期における認知症、脳血管疾患などの老化に起因する疾病によるもの。

老人介護の主なサービスの実態

要介護・要支援認定者の平均的な 身体の状態例（目安）

状態区分	身体の状態例（目安）
要支援1・2	日常生活の一部に介護が必要だが、介護サービスを適度に利用すれば心身の機能の維持・改善が見込める。
要介護1	立ち上がりや歩行が不安定。排泄や入浴などに部分的介助が必要。
要介護3	立ち上がりや歩行などが自力では不可。排泄・入浴・衣服の着脱など全面的な介助が必要。
要介護5	日常生活全般について全面的な介助が必要。意思の伝達も困難。

（「土屋有・武谷美奈子：これで失敗しない！有料老人ホーム 賢い選び方、2006」から作成。）

老人介護の主なサービスの実態

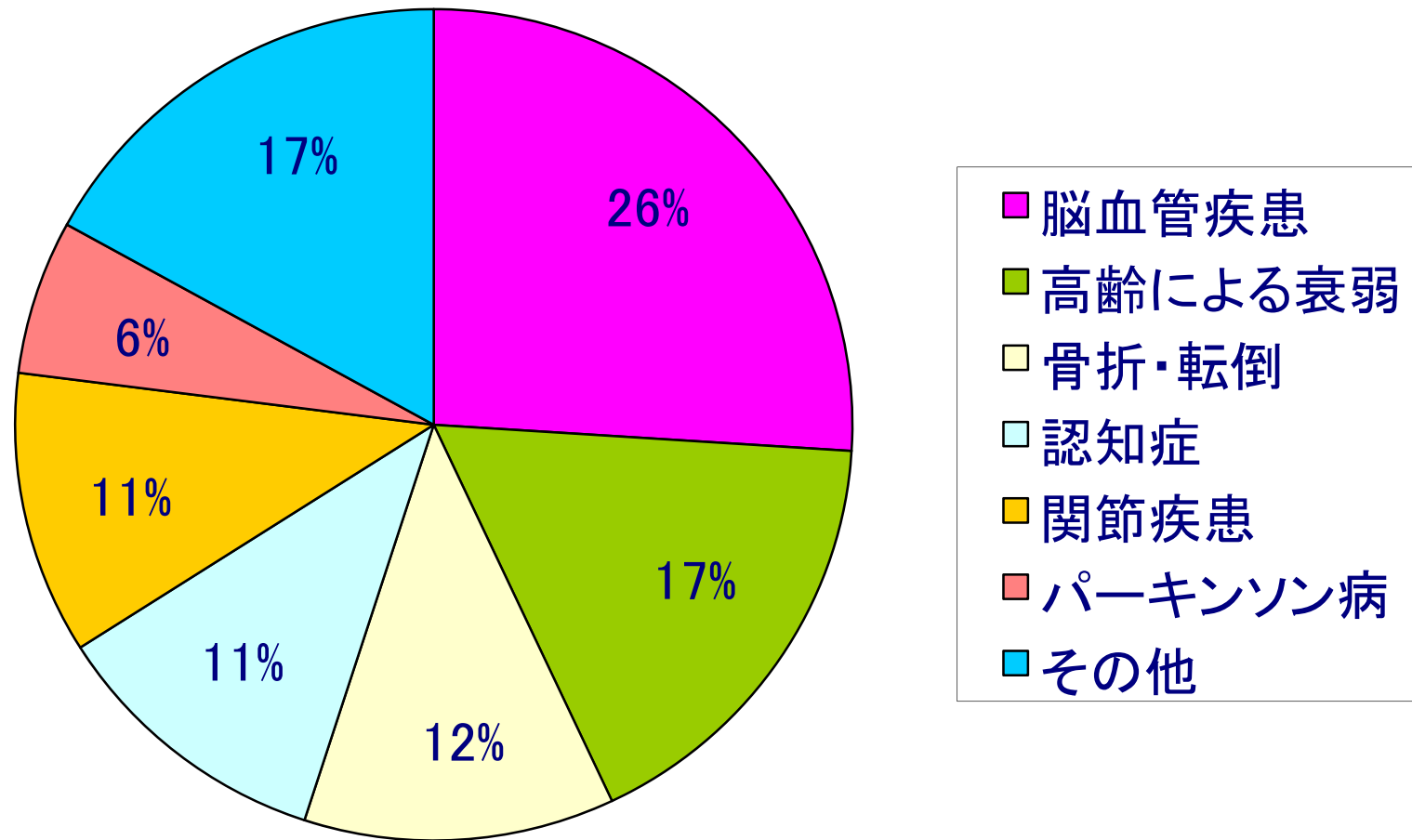
要介護（要支援）認定者数(万人)

年 次	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
2000年 4月末	29	55	39	32	34	29	218
2008年 2月末	117	77	80	70	57	50	451

（厚生労働省の「介護保険事業状況報告（暫定）」から作成）

老人介護の主なサービスの実態

65歳以上の要介護の原因



(厚生労働省「国民生活基礎調査（平成13年）」から作成)

老人介護の主なサービスの実態

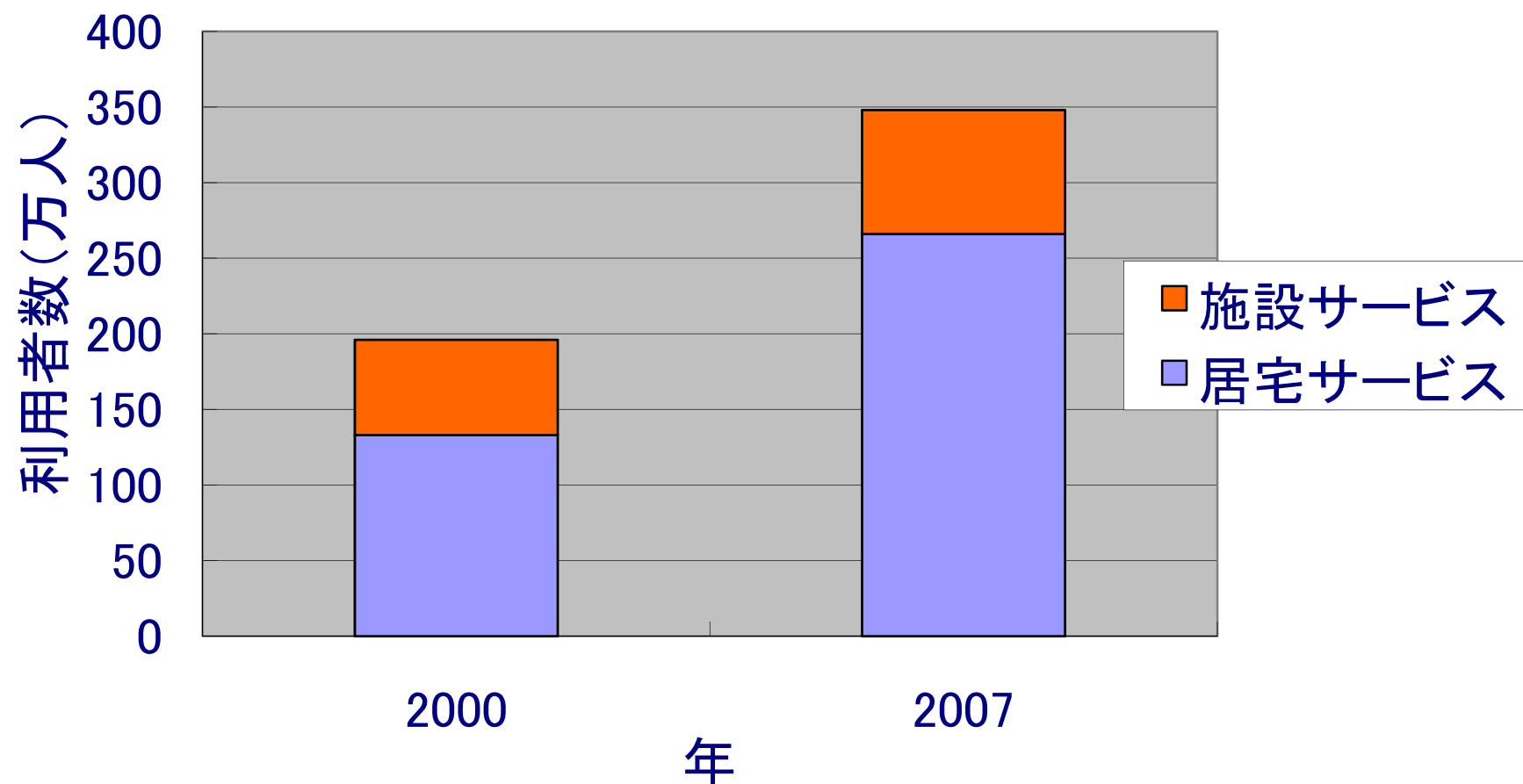
介護保険制度における主な居宅及び施設サービス等

居宅サービス	<ul style="list-style-type: none">①訪問介護（ホームヘルプ）②訪問看護③訪問リハビリテーション④通所リハビリテーション（デイケア）⑤通所介護（デイサービス）⑥短期入所生活介護（シュートステイ）⑦短期入所療養介護（ショートステイ）⑧認知症対応型共同生活介護（グループホーム）⑨特定施設入所者生活介護（有料老人ホーム）⑩福祉用具貸与
施設サービス	<ul style="list-style-type: none">①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）②介護老人保健施設（老人保健施設）③介護療養型医療施設（療養型病床群等）

（「山縣文治・岡田忠克：やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ、よくわかる社会福祉〔第5版〕、2007」などから作成）

老人介護の主なサービスの実態

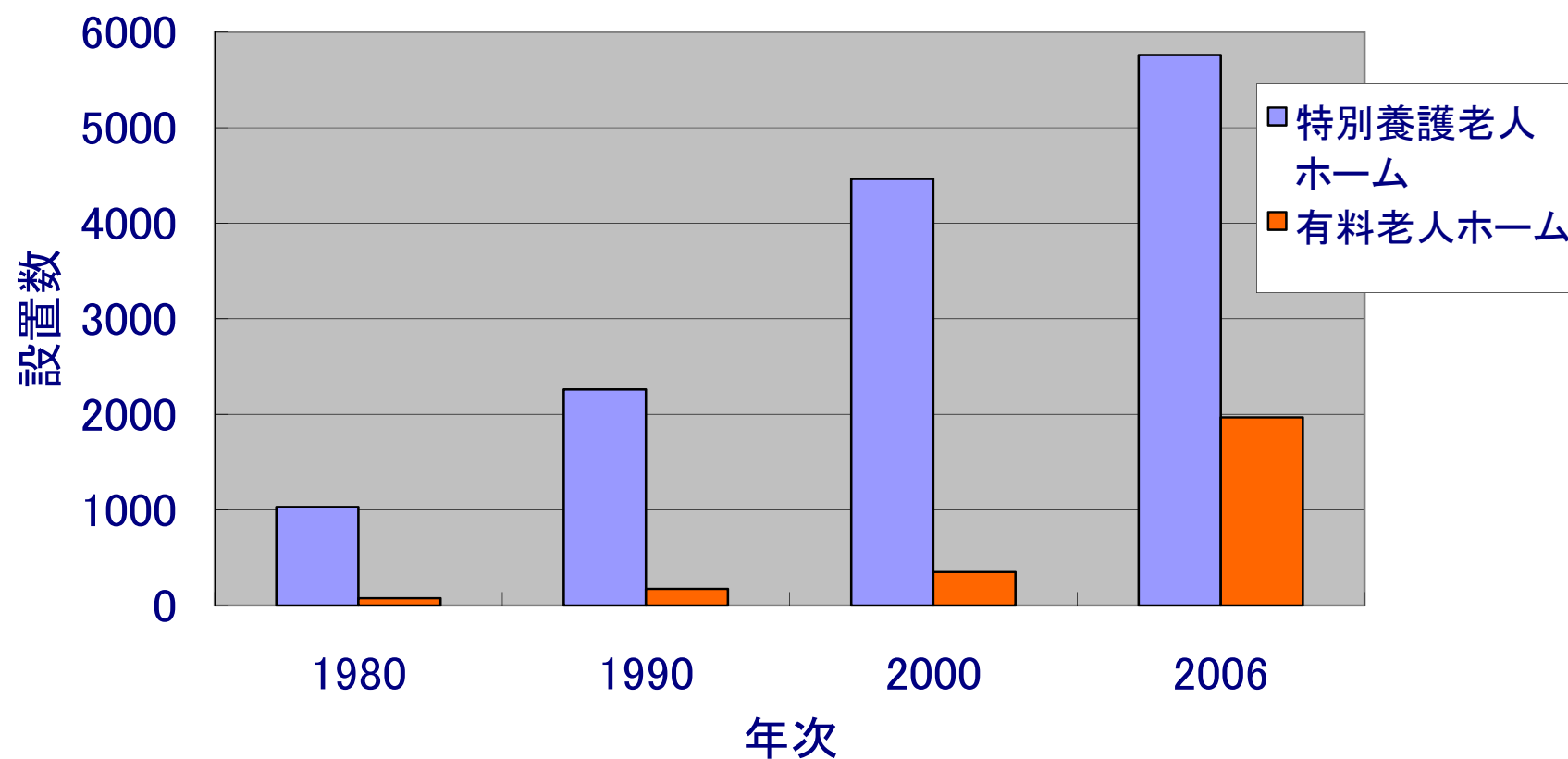
介護サービスの利用者数



注) 各年とも12月の実績。(厚生労働省の「介護保険事業状況報告(暫定)」から作成)

老人介護の主なサービスの実態

特別養護老人ホームと有料老人ホームの 設置数の推移



注) 各年とも10月1日現在の数値。(厚生労働省の「社会福祉施設等調査報告」から作成)

老人介護の主なサービスの実態

〔八尾市〕

- ・ 位置：大阪府東部に位置し、西は大阪市と東は奈良県に接している。
- ・ 面積：約42km² 人口：約27万人

八尾市内に所在する主な老人介護関係施設

名 称	開設日等	施設数	定 員
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	S53. 4～H16. 11	13	各30～150、計811
介護老人保健施設	H10. 3～H17. 4	5	各71～100、計471
介護療養型医療施設	H12. 4～H14. 8	3	各60～120、計240
介護付有料老人ホーム	H15. 1～20. 8	7	各29～130、計412

注) 本表は、2008年8月1日現在の現況を表す。なお、特別養護老人ホームのうち、八尾市内に所在する大阪市立大畑山苑は含まない。
(大阪府高齢介護室のホームページの資料から作成)

私の家族における老人介護実態と問題点

私の家族における老人介護の実態と問題点等

○被介護者

父：86歳（要介護5）	母：86歳（要介護4）
<ul style="list-style-type: none">・ 2006.8 脳梗塞で入院。・ 2006.9 リハビリ施設（介護老人保健施設）に入居。・ 2007.7 介護付有料老人ホームに入居（月約20万円）。	<ul style="list-style-type: none">・ 2006.10 事故により2回目の大腿部骨折、入院。・ 2007.1 リハビリ施設（介護老人保健施設）に入居。・ 2007.7 介護付有料老人ホームに入居（月約20万円）。・ 2008.3 特別養護老人ホームへ転居（月約4万円）。

○家族等における主な介護者

- ・ 私（61歳）
- ・ 妻（60歳）
- ・ 姉（63歳）（93歳の義母（要介護2）の自宅介護
： デイサービス活用）
- ・ 姉の夫（65歳）（同上）

私の家族における老人介護の実態と問題点

私の両親の介護における問題点等

1. 施設上の問題点

(1) 支出がかさむ。

①以前、両親ともに介護付有料老人ホームに入居（約40万円／月）。

②現在は、母が特別養護老人ホームに入居中。しかし、父はそこにはなかなか移れず。

(2) 別々の施設に入居しているため、

①父と母が会うことはほとんどできない。

②両親への面会に時間がかかる。

(3) 面会のときには、他の入居者に迷惑がかからないように配慮する必要がある。

(4) 長期に家を空けることは困難：施設からいつ急な電話があるかも知れない。

2. その他の問題点

(1) 案外、雑用が多い。

(2) 先が見通せないことへの不安。

老人介護に対する一つの考え方

厚生労働省の調査による介護者の悩み

(複数回答、単位：%)

①ストレスや精神的負担が大きかった	52.7	⑨介護の手助けをしてくれる者がいなかった	14.4
②十分睡眠がとれなかった	45.7	⑩適切な介護の仕方が分からなかった	11.9
③家を留守にできなかった	41.8	⑪持病の治療ができなかった	9.9
④自分の時間がもてなかった	40.3	⑫相談する者がいなかった	5.1
⑤食事や排泄、入浴等の世話の負担が大きかった	37.3	⑬介護する部屋がなかった	2.2
⑥症状の変化に対応できず不安だった	21.6	⑭その他	7.8
⑦仕事に出られなかった	17.3		
⑧介護に要する経済的負担が大きかった	14.8	⑮特に困ったことはなかった	19.6

注) 65歳以上の死亡者の主な介護者(世帯員又は世帯員以外の親族)を対象としている。
(厚生省大臣官房統計情報部の「人口動態社会経済面調査(平成7年度)」から作成)

老人介護に対する一つの考え方

老人介護に対する私の考え方

- ① 無理をしない（背伸びをして、良い子にならない）。
- ② 女性のみが介護をするのではなく、家族、親戚等が協力し合う。
- ③ 介護福祉の支援等（施設入居、デイサービス、訪問介護など）の活用。
- ④ 施設入居の場合には、できるだけ多くの人が面会。

老人介護に対する一つの考え方

遠距離介護を乗り切る心得11カ条

- ① 三歩早めにスタートし、介護予防に重点を置く。
- ② 便りのないのは元気な証拠、とは限らない。
- ③ ふだんの親の生活パターンを知っておく。
- ④ 親の暮らす地域の各種サービスの情報収集は子どもの役目。
- ⑤ ケアマネージャーや医師には積極的にコンタクト。
- ⑥ 親の親友、近隣の電話番号を聞いておく。
- ⑦ 育った時代背景が異なる親に、子どもの価値観を押しつけない。
- ⑧ 考えるだけでは進展なし。実行することが重要。
- ⑨ 兄弟姉妹、配偶者を味方につける努力を。
- ⑩ 世間体より親や子の笑顔が大切。
- ⑪ 無理は禁物。通う子どもの心と体の健康も大事。

(太田佐恵子：遠距離介護、岩波ブックレット、2003より)

老人介護をする職員への支援策の検討

1 介護に係る情報の提供

(1) 情報

- ①どこに相談すればよいのか。（要介護者の住む地域の地域包括支援センターなど）
- ②どのような介護サービスがあるのか。
- ③外部の介護に関する講演会、説明会など。
- ④その他介護に関する情報。

(2) 提供方法

- ①ホームページの整備やE-メールでの配信など。
- ②小冊子での配布。
- ③専門家による説明会や講演会の実施。

2 悩み、問題点等を相談できる座談会等の場の設定

3 介護手当等金銭的な支援

4 介護休暇の拡充等時間的な支援

両親の介護を通じて学んだこと

- ① 自分自身の健康を維持することの大切さを痛感。
- ② 介護は突然やってくることがある。
- ③ 55歳を過ぎたら、少しずつ身边をすっきりしておくことを考えることも必要。

